

■介護福祉士養成施設、外国人留学生の入学者 1.7 倍に 介養協

- ・日本介護福祉士養成施設協会（介養協）は9月30日、介護福祉士養成施設への入学者の外国人留学生は2024年度で3,054人となり、前年度比1.7倍に増えたと公表した。日本人の新卒者などは前年度と比べ21.5%減少し3,084人で、外国人留学生とほぼ同じ人数になった。
- ・24年度は20カ国から外国人留学生が入学し、前年度から5カ国減った。入学者数が最も多かった国はネパールの1,311人で、前年度から3.57倍に増えた。次いで、▽ミャンマー（533人）▽ベトナム（431人）▽中国（223人）▽インドネシア（205人）など。
- ・ネパール人学生が急増した理由について、介養協の担当者は「ネパール人学生の多くは日本語学校からの入学者が大半を占めている。その多くは来日後に介護福祉士を目指す選択をしていると聞いているが、24年度にネパール人学生がこれほど急増した理由については明らかではない」と話している。
- ・介養協の調査に回答した養成施設（課程）は279カ所（前年度比17カ所減）で、入学定員数は1万1,139人（同7.9%減）。24年度の入学者は日本人の新卒者などが前年度から846人減ったものの、外国人留学生が1,252人増え、全体の入学者数は前年度比5.6%増の6,546人となった。定員充足率は58.8%（同7.5ポイント増）。

※詳細は下記の資料をご参照ください。

○介護福祉士養成施設への入学者数と外国人留学生（令和2年度から令和6年度）

日本介護福祉士養成施設協会調査による

[https://www.a-kaigo.gr.jp/admin\\_wp/wp-content/uploads/2024/10/20241004.pdf](https://www.a-kaigo.gr.jp/admin_wp/wp-content/uploads/2024/10/20241004.pdf)